

ロンドン日本人学校の取組について

周南市立須磨小学校 校長 古元 充成
(平成 15 年度派遣 イギリス ロンドン日本人学校)

1. はじめに

私がロンドン日本人学校に赴任したのは、2003 年である。ロンドン日本人学校では、テムズ学級（特別支援学級）と中学部の技術科を担当した。特別支援教育が充実した学校で、障害の有無にかかわらず児童・生徒がお互いを認め・助け合い、それをすべての教職員で見守り・支える学校であったのを今でもよく覚えている。そんな学校でテムズ学級を担当できたことは、本当に幸運であった。保護者、教職員にも助けていただき、校内外での様々な取組を実践することができた。また、現地校との交流など日本の学校ではできない貴重な経験もたくさんさせていただいた。

そんなロンドン日本人学校について、帰国後にまとめていたものを寄稿させていただくことになった。簡単ではあるが、当時のロンドン日本人学校の取組について伝えることができたと思う。

2. ロンドン日本人学校について

ロンドン日本人学校は 1976 年に設立され、2005 年 4 月現在、小学部 332 名、中学部 127 名、計 459 人で欧米地区大規模校の一つであった。1999 年には、特別支援学級であるテムズ学級が開設された。（現在は設置されていない）校舎は、1900 年に現地の女学校として建てられたものであり、総レンガ造りで重厚なたたずまいである。校庭には校歌にもうたわれている大きな菩提樹があり、ロンドン日本人学校を象徴するものの一つとなっている。



ロンドン日本人学校の
校舎、校庭



3. 英会話の学習について

小学 1 年生から中学 3 年生までの全学年で、週 3 時間の英会話授業を設定していた。英語の学習経験や習熟状況に応じてクラスを編成し、ネイティブの教師と日本人教師が連携しながら効果的な指導を行っていた。英語圏はもとより全世界の人とかかわりをもてるようにと、国際コミュニケーション能力を育成することにも重点を置いていた。



英会話の授業風景



4. 現地校交流について

海外で暮らす子ども達ではあるが、日常生活の中で英国に住む日本人以外の人とかかわりをもつ機会はそれほど多くなかった。そこでロンドン日本人学校では、学部・学年別に現地の学校やフランス人学校、ドイツ人学校、スペイン人学校などと相互訪問を行って交流を深めていた。交流では、それぞれの学校の授業に参加したり、自分達の国の文化や日頃の学習成果などを発表し合ったりしていた。交流を通して子ども達は、英語を介して異国の人々とコミュニケーションすることの楽しさを感じることができていた。また、それが英語を学習する意欲や異文化を知ったり理解しようとしたりする態度につながっていた。



福祉についての授業での交流の様子



手作りのプレゼントを交換する子ども達

5. 特別支援教育について

ロンドン日本人学校では、個別の教育的ニーズに応じた教育に全校体制で取り組んでいた。テムズ学級（特別支援学級）では、国語・算数などの基礎・基本的な学習内容の定着を図ること、体験的な活動を重視し、生活力の向上を図ることを目標として指導を行っていた。テムズ学級に在籍する子ども達は、個々の教育的ニーズに応じて交流学級でも学習していた。また、通常学級に在籍する児童・生徒に対しても、その教育的ニーズに応じて個別またはTTによる指導を行っていた。特別支援教育担当の教員だけでなく様々な教員が連携して特別支援にかかわることで理解や協力の輪が広がり、学習や行事における支援を学校全体の共通理解のもとに行うことができていた。



英国人教師との
かわりを楽しむ授業



自然体験学習
（交流学年の友達と一緒に）



英国人コーチにテニスを
教えてもらう授業



自分達で作った製品を
販売する子ども達



近所の店で買い物をする授業



販売機で地下鉄の切符を購入する子ども

6. 私立学校としての取組

ロンドン日本人学校は、学費をいただいて学校を運営している私立学校であるため、学校経営という側面から子どもの数を確保しなければならない。英国の公立校では外国人であっても無料で教育を受けられたり、ロンドンにはインターナショナルスクールもあつたりするため、その中からロンドン日本人学校を選んでもらうために、学校の魅力を進んでアピールしていかなければならなかった。(たくさんの人に知ってもらうために広告を出すこともあった)

日本語による文部科学省の定めた学習指導要領に準拠した教育を受けられることが一番のセールスポイントであるが、それ以外にも英語教育、現地校交流、漢検・英検の実施などロンドン日本人学校独自の特色を加味していかなければならなかった。2005年には、学力向上という視点から学力テストを導入し、その結果を各教科部会で分析・検討して教科指導に生かすようになった。結果は保護者にも開示し、理解を得ながら指導を進められるようにした。また、学校評価を保護者にしてもらい、それを次年度の計画にも反映させるようにしていた。このように私立学校として子どもや保護者のニーズを把握し、教育的な検討、判断を行いながら運営に反映させる姿勢は、帰国後も大いに役立った。

7. おわりに

ロンドン在任中に生まれた娘が現在大学に通っている。帰国してから随分と時間が経ったが、ロンドン日本人学校でのたくさんの思い出は、今もあせることなく心に残っている。当時のテムズ学級の児童とは今も年賀状のやり取りをしている。彼らが就職して仕事をがんばっていたり、グループホームでの生活を楽しんだりしていることを知るたびに、ロンドン日本人学校での生活を思い出し、うれしい気持ちになる。

ロンドンでは、いくつも貴重な出会いがあった。その中でも一緒に着任し、同じ飛行機で帰国した10人の同期は、どんなときも励まし合い助け合ったかけがえのない存在である。全国から集まった仲間と切磋琢磨できることも、日本人学校の大きな魅力だと思う。今振り返っても、輝き充実していたと思える3年間を過ごす機会を与えていただいたことに、改めて感謝したい。

今、日本人が海外で働き、子どもを育て学ばせることは以前よりも困難になっているのではないかと。そんな時期だからこそ、覚悟をもった教師が日本人学校に赴任し、子ども達のために実践を重ねる必要があるのではないかと。

興味のある方は、ぜひチャレンジしてください。